

国指定史跡

銚子塚古墳附丸山塚古墳

史跡整備事業に伴う発掘調査報告

2002. 3

山梨県教育委員会

国指定史跡

銚子塚古墳附丸山塚古墳

史跡整備事業に伴う発掘調査報告

2002. 3

山梨県教育委員会

序文

本報告書は、平成13年度史跡整備事業に伴って実施された国指定史跡銚子塚古墳の発掘調査報告書であります。

山梨県東八代郡中道町に占地する銚子塚古墳は山梨県における前期古墳を代表するものとして、隣接する丸山塚古墳とともに昭和5年に国の指定を受けております。その後、昭和58年から60年にかけて保存整備のための発掘調査が実施され、口縁部に三巴の透かし孔を持つ壺形埴輪や古墳の形態、葺石などの今まで解らなかったさまざまな状況が明らかとなりました。

今回の発掘調査は平成13年10月と平成14年1月にそれぞれ約2週間ずつという短い期間ではありましたが、木製埴輪や壺形埴輪、円筒・朝顔形埴輪が出土したこととともに、後円部の墳端が確認されるという成果をあげることができました。このことは今後、実施される史跡整備事業に有効なデータであることは間違ひありません。

末筆にはなりますが、種々のご協力を賜りました関係各位、地元の方々並びに発掘調査と整理作業に従事していただいた方に厚く御礼申し上げます。

2002年3月

山梨県埋蔵文化財センター
所長 大塚初重

例言・凡例

1. 本報告書は平成13年度（2001年度）の史跡銚子塚古墳の国庫補助を受けた保存整備事業の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および出土品の整理は、山梨県埋蔵文化財センターで行い、齊藤伸・吉岡弘樹が担当した。なお、第2章を齊藤がそれ以外を吉岡が分担執筆した。
3. 写真は、齊藤・吉岡が撮影した。
4. 発掘調査および整理作業において、次の機関よりご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略）
中道町教育委員会
5. 本報告書の挿図等に関する指示は下記のとおりである。
遺構・遺物の挿図縮尺は基本的に次のとおりであるが、資料などの大きさにより適宜、縮尺を変化させてある。また、これ以外のドットマークなどの指示については図中に示してある。
遺構 全体図：1／1,000 土層断面図：1／60
遺物 土器類および拓影：1／3・1／4
6. 本報告書に関わる出土品および記録図面・写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

目次

序文

例言・凡例

第1章 調査の経緯と組織

第1節 調査にいたる経緯	1
第2節 調査組織	1

第2章 古墳の概観

第1節 地理的・歴史的環境	1
第2節 銚子塚古墳の概要	5

第3章 調査方法と基本層序

第1節 調査方法	5
第2節 基本層序	6

第4章 調査の成果

第5章 まとめ

まとめ	9
-----	---

挿図目次

第1図 古墳位置図

第2図 銚子塚古墳 丸山塚古墳測量図

第3図 基本層序柱状図

第4図 トレンチ配置図

第5図 土層断面図その1

第6図 土層断面図その2

第7図 第1～5Tr出土遺物実測図

第8図 第6Tr出土遺物実測図

第9図 第7Tr出土遺物実測図

写真図版目次

写真 1 銚子塚古墳前方部より

後内部を望む

写真 2 前方部より西方を望む

写真 3 古墳全景

写真 4 調査前の様子1

写真 5 調査前の様子2

写真 6 調査前の様子3

写真 7 終了後の埋め戻し状況1

写真 8 終了後の埋め戻し状況2

写真 9 第1Tr 土層断面

写真 10 第1Tr 調査風景

写真 11 第2Tr 土層断面

写真 12 第3Tr 土層断面

写真 13 第3Tr 排水作業

土層断面

写真 14 第4Tr 土層断面

掘削状況

写真 15 第5Tr 土層断面

出土木製品

写真 16 第5Tr 土層断面

出土埴輪片

写真 17 第3Tr 土層断面

出土埴輪片

写真 18 第1Tr 土層断面

出土埴輪片

写真 19 第2Tr 土層断面

出土埴輪片

写真 20 第3Tr 土層断面

出土埴輪片

写真 21 第6・7Tr 調査前の状況

埋め戻し後の状況

写真 23 第6Tr

重機による掘削

写真 24 第6・7Tr

写真 25 第6Tr その1

写真 26 第6Tr その2

写真 27 第7Tr

写真 28 第7Tr

掘り下げ風景

写真 29 後部南西

残土処理前

写真 30 後部南西

残土処理後

第1章 調査の経緯と組織

第1節 調査にいたる経緯

甲斐風土記の丘公園内に所在する銚子塚古墳は昭和3年に後円部から石室が発見され、東日本最大級の前方後円墳として、さらに畿内色の強い豊富な副葬品などから前期古墳研究において重要な位置を占めるようになり、昭和5年2月28日には隣接する丸山塚古墳とともに国指定史跡に指定された。

山梨県教育委員会では昭和51年に風土記の丘建設委員会を設置し史跡範囲内について昭和52・53年には、銚子塚古墳の北西の周溝にかかる一部を除き買収をし公有地化した。これに伴って昭和58～60年度にかけて発掘調査が行われた。今年度は平成13年10月9日～24日と平成14年1月15日～28日の2期に分割して、近年買収の進んだ西側および北側について墳端および周溝の確認調査が実施された。

第2節 調査組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

調査担当者 (山梨県埋蔵文化財センター 文化財主事)
齊藤 伸 吉岡弘樹

作業員

宮久保あさの 千野富子 小林としみ 長田くみ子 宇野和子
出月多津子 橋田由利子 渡辺喜乃女 伊藤津真子

第2章 古墳の概観

第1節 地理的・歴史的環境

銚子塚古墳の所在する中道町は、旧石器時代より古代に至る間の遺跡が濃密に分布する地域である。銚子塚古墳はこの中道町下曾根の甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内に占地している。曾根丘陵は甲府盆地南東縁に南北3km、東西13kmの広がりをみせている。丘陵の前線は急傾斜で平地に落ち込み、御坂山地に源を発する七覚川、間門川などの中小河川によって浸食され、幾つかの舌状台地を形成している。この台地の先端に東山(標高約340m)があり、この北東斜面の山麓に所在する古墳を東山古墳群と呼称している。銚子塚古墳1(前方後円墳・全長169m)はこの一角で標高約260m付近に位置している。このほか東山古墳群には、4世紀中頃から5世紀後半代に築造されたと考えられる大丸山古墳2(前方後円墳・全長99mないし120m)、丸山塚古墳3(円墳・直径72m)、かんかん塚(茶塚)古墳4(円墳・直径26m)などの前期古墳が存在する。

また西方の米倉山古墳群には、本県最古で唯一の前方後方墳であり4世紀前半代の築造と考えられる小平沢古墳5(前方後方墳・全長45m)がある。さらに南方の金沢地域を中心とする金沢古墳群には、天神山古墳6(前方後円墳・全長135m)といった前期古墳が存在する。以上のように本県における

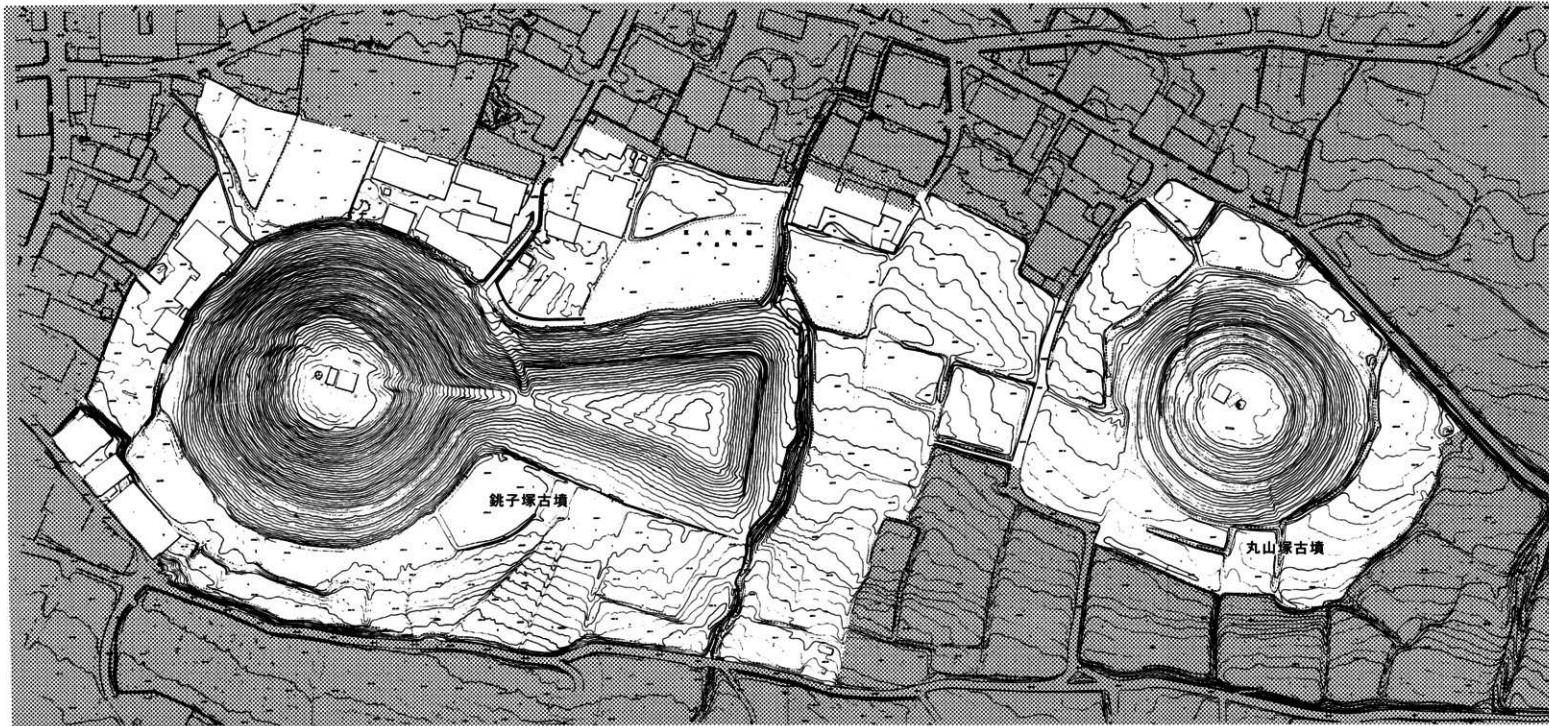


第1図 古墳位置図 S =1/25,000

る最古で最大級に属する古墳がこの地域に集中している。このことはこの地が古墳時代には、本県の政治的中枢地であったことを顕著に物語っているといえよう。

参考文献

- 1986 山梨県教育委員会「銚子塚古墳附丸山塚古墳」－保存修理事業第3年次概報
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第15集
- 1994 山梨県教育委員会「上の平遺跡第6次調査・東山北遺跡第4次調査・銚子塚南東部試掘」
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第94集
- 2000 山梨県教育委員会「岩清水遺跡」－甲斐風土記の丘「曾根丘陵公園」造成に伴う発掘調査報告書
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第182集



第2図 銚子塚古墳 丸山塚古墳測量図 S = 1 / 1,000
白抜き部分が指定範囲

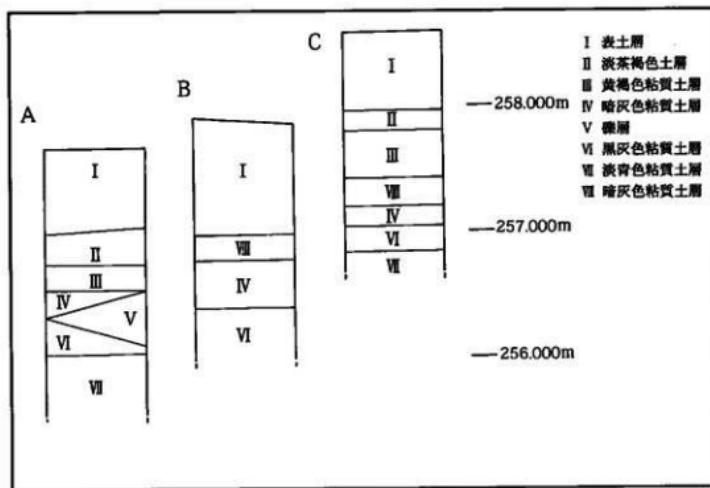
第2節 銚子塚古墳の概要

曾根丘陵下方の傾斜変換線上（標高約260m）に位置し、東西方向に主軸をとる長さ約169mを測る前方後円墳である。かつて本古墳は伊勢講の信仰対象地とされ伊勢塚とも称されていた。昭和3年に伊勢講帳舎建設に伴い後円部に竪穴式石室が発見され、続いて多数の副葬品も出土した。石室は割石を使用し小口積みで後円部の中央に古墳主軸とほぼ直交するかたちに構築されている。副葬品には、内光花文鏡、三角縁神人車馬画像鏡、仿製半円方格帯環状乳神獸鏡、三角縁三神三獸鏡など鏡5面、碧玉製車輪石、碧玉製石劍、仿玉類、管玉類、貝剣、鉄劍、鉄刀、鉄鎌、鉄斧、鐵鎌などがあげられ、畿内的な様相を強めている。なお、三角縁神人車馬画像鏡については岡山県車塚古墳、群馬県三本木古墳、福岡県藤崎遺跡出土の鏡と同範囲関係にある。

第3章 調査方法と基本層序

第1節 調査方法

平成13年10月に実施した後円部西側部分の調査は、古墳主軸より15°ごとに放射状に用地内にトレントチ（1～5号）を設定した。また、平成14年1月に行われた北側部分については任意にトレントチ（6・7号）を設定した。双方ともに重機を使用して掘り下げ、その後、人力による精査を行い土層、墳端部、周溝等を確認することとした。また、トレントチの設定にあたっては、隣接する民家や地下埋設物等を考慮し、さらに防護フェンス等で調査区域を囲うなどの危険回避措置を行った。



第3図 基本層序柱状図

第2節 基本層序

調査予定地のほとんどが墳丘端部と周溝内という特異な箇所であるため第4図に示すとおり周溝部分の平均的な3地点の層序を記して基本層序としたい。

A地点では表土層下に淡茶褐色土層、黄褐色粘質土層と続き墳丘から崩落してきた葺石が礫層を形成している。B地点においては周溝底面近くに堆積したと考えられる粘質土層が厚く観察できた。C地点では、A地点と非常に似た土層が観察できるが礫層はみられない。

第4章 調査の成果

第1号トレンチ

後円部中心点Oから古墳主軸に0°を設定し北方向へ45°の位置に設定したトレンチである。60cmほどの厚い表土の下、比較的安定した堆積をみせている。墳丘端部は大きな擾乱によって上方は削平されていたが末端付近は墳丘を構成している地山層である黄灰色粘質土層が確認されている。周溝には5~10cmほどの礫がレンズ状に厚い堆積をみせている。なお、この礫層は崩落した葺石の一部と推測される。また、底と思われる淡青色粘質土が確認できた。

出土遺物としては埴輪片（第7図1~3）が出土した。

第2号トレンチ

後円部主軸から北方向へ30°の位置に設定したトレンチである。約240cmの深度を測る。1号トレンチと同様に黄灰色粘質土層が確認され、これが墳丘端部をなしている。周溝にはやはり崩落した葺石が5~10cmほどの厚さでレンズ状に堆積をみせている。周溝底部からは淡青色粘質土層が確認された。出土遺物としては埴輪片（第7図4~6）が検出された。

第3号トレンチ

後円部主軸から北方向へ15°の位置に設定したトレンチである。当トレンチでも1・2号トレンチと同様の堆積状況が観察された。S P-Eより2m地点に墳丘端部と周溝の変換点と考えられる地山層の変化がみられる。出土遺物は埴輪片（第7図7）のほかに木製埴輪片（第7図8）が底付近より検出された。

第4号トレンチ

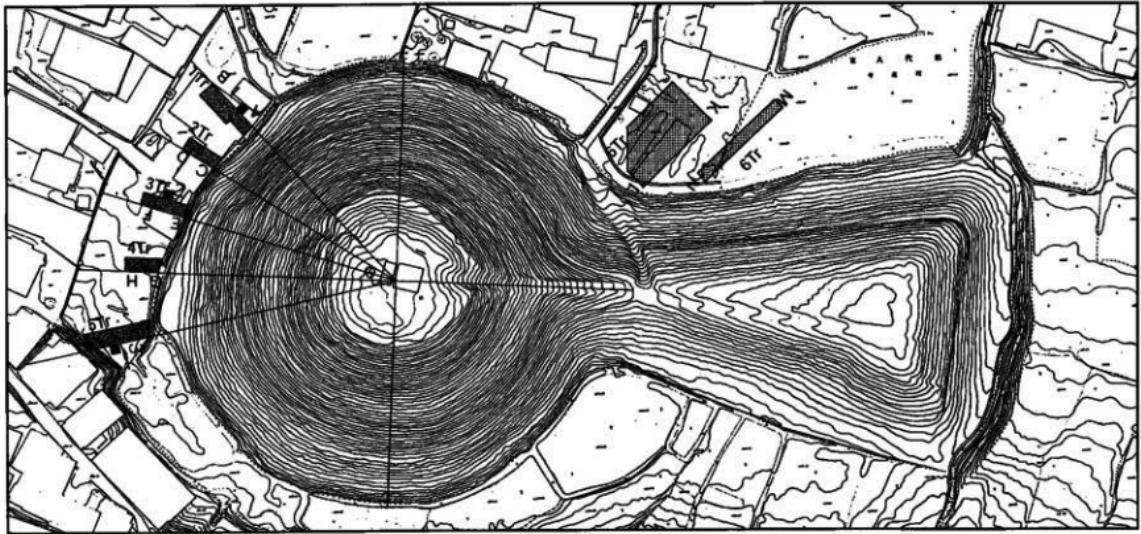
古墳主軸方向に設定したトレンチである。1~3号トレンチと比べ周溝深度が最深部で約160cmと明らかに浅い。また、葺石の崩落状況も墳丘裾部分で止まっているため周溝内の堆積は少ない。なお、遺物の出土はなかった。

第5号トレンチ

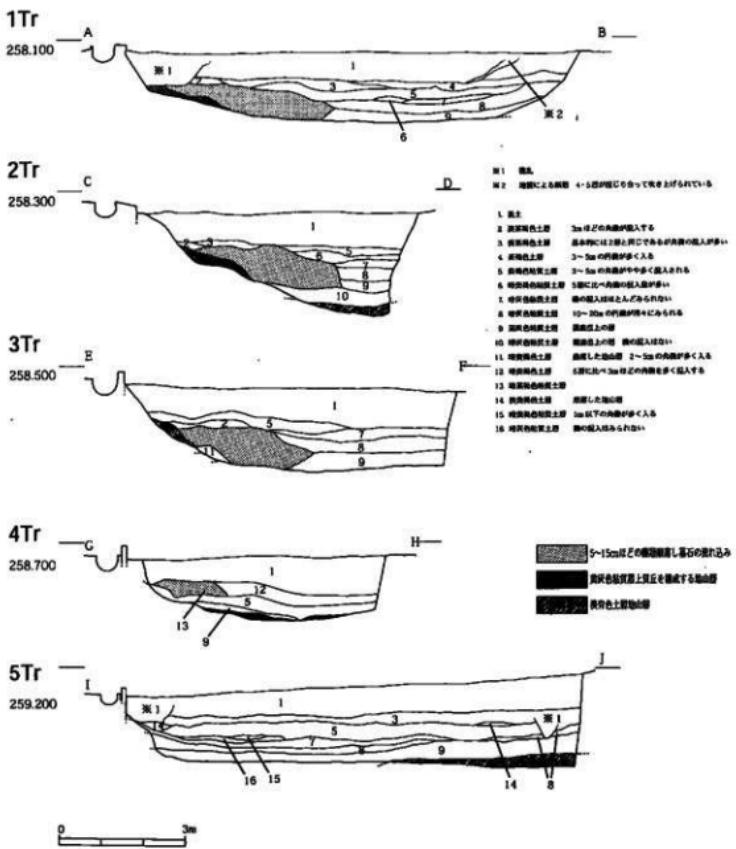
後円部主軸から南方向へ15°の位置に設定したトレンチである。当トレンチでは墳丘端部は捉えられなかった。周溝部分についても底が確認できたのみである。しかし、S P-Iから7.3m付近から全体に土層の上昇がみられ外側の立ち上がり変換点を予測させている。遺物の出土はなかった。

第6号トレンチ

7号トレンチとともにくびれ部分に設定された大型のトレンチである。各所に大規模な擾乱があるため良好な部位より周溝底部などを類推しなければならない状況であった。古墳本体側近くに



第4図 トレンチ配置図 S =1/1,000

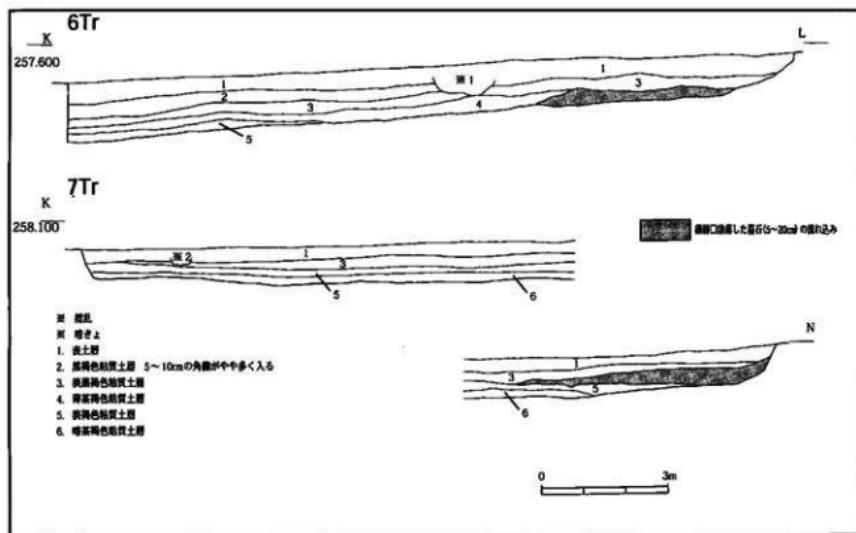


第5図 土層断面図その1 S=1/60

おいて5~20cm程の崩落した葺石が浅いレンズ状に堆積をみせ、その中から多量の埴輪片が検出された。1~5号トレンチと比較して周溝の深度は浅く底部の形状も比較的平坦で湧水量も少ない。遺物は、前述した礫層より多量に出土した埴輪片の大部分が円筒・朝顔形埴輪であり、極わずかに壺形埴輪が含まれている。

第7号トレンチ

6号トレンチに並行して設定されたトレンチである。古墳本体側では墳丘端部の一部と考えられる傾斜が確認された。また、各トレンチと同様に、葺石が崩落して形成した礫層がより厚く堆積している。



第6図 土層断面図その2 S=1/60

その他の層位はおおよそ6号トレンチと同様の堆積状況を示す。
遺物は疊層中より円筒・朝顔形埴輪片、壺形埴輪片が出土している。

第5章 まとめ

円筒・朝顔形埴輪

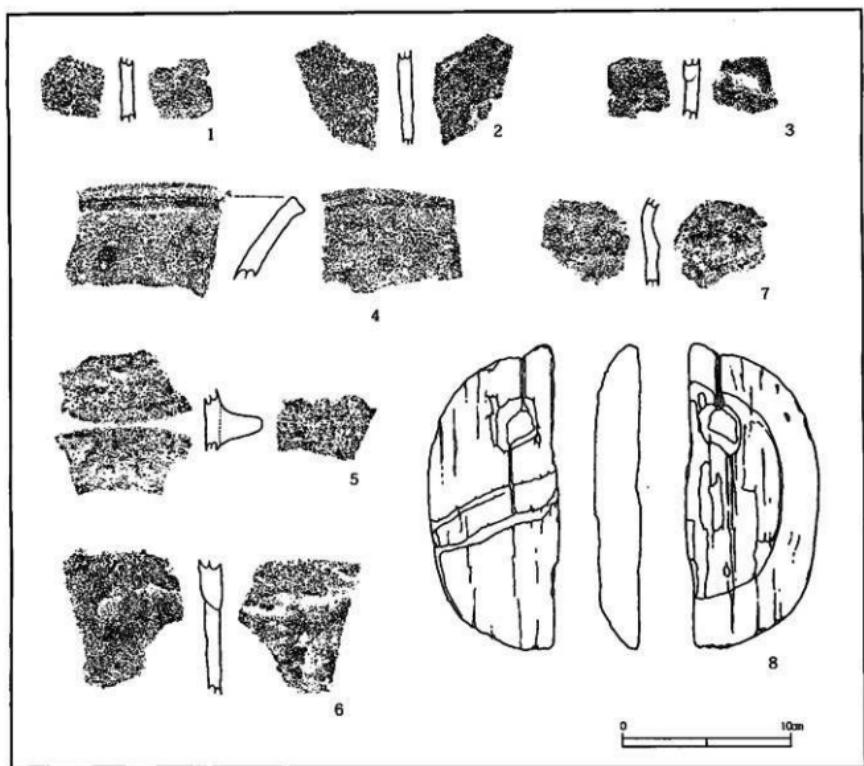
1号～5号トレンチ出土の埴輪片では全体の形状を理解できるものは少ない。形態が判断できるものは1点（第7図4）のみである。当該資料は逆ハの字状に開く形状をとるものと考えられよう。タガ部は1点（第7図5）である。

6・7号トレンチにおいては前述のものと違い完形に復元できるものはないがおおよその形状を理解できるものが数点検出された。

口縁部分の形態は逆位にハの字状に開く単口縁が主となっている。タガ部はすべて貼り付けでM字または台形に突出する。透し孔は三角および方形との二種があるようであり、巴形は検出されなかった。焼成は軟質で胎土も荒い。

壺形埴輪

6・7号トレンチよりそれぞれ口縁から頸部にかけての一部分が1点ずつ検出されている。その形態



第7図 第1～5T_r出土遺物実測図 S=1/3

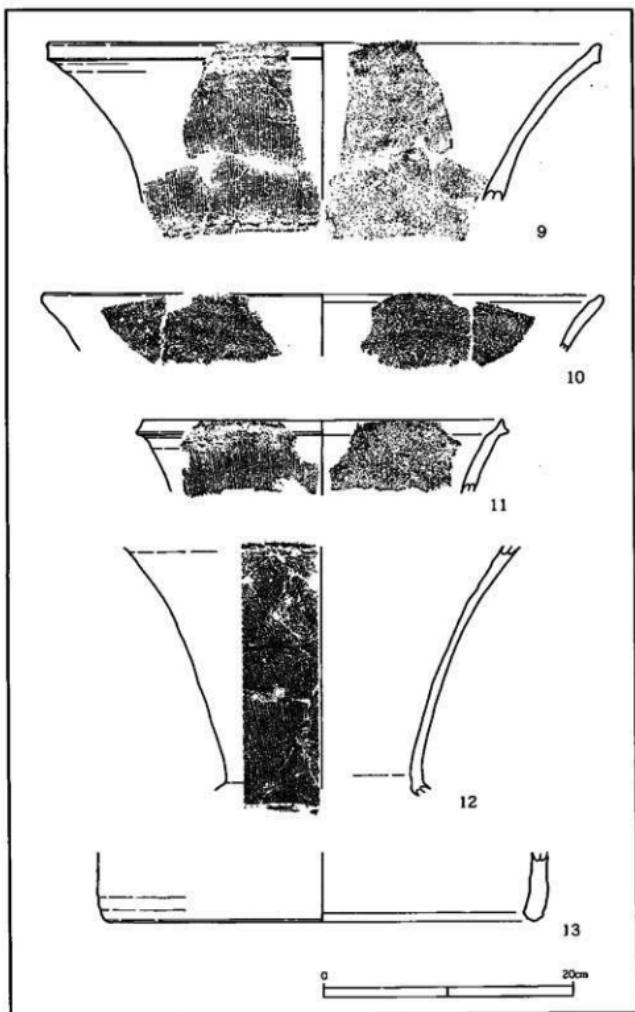
は以前の調査で出土した二重口縁壺と同様とみられる。しかし、透かし孔は現段階では確認できていない。また、タガについてもその有無は不明である。焼成はやや低温で軟質であり、胎土も荒い。

木製埴輪

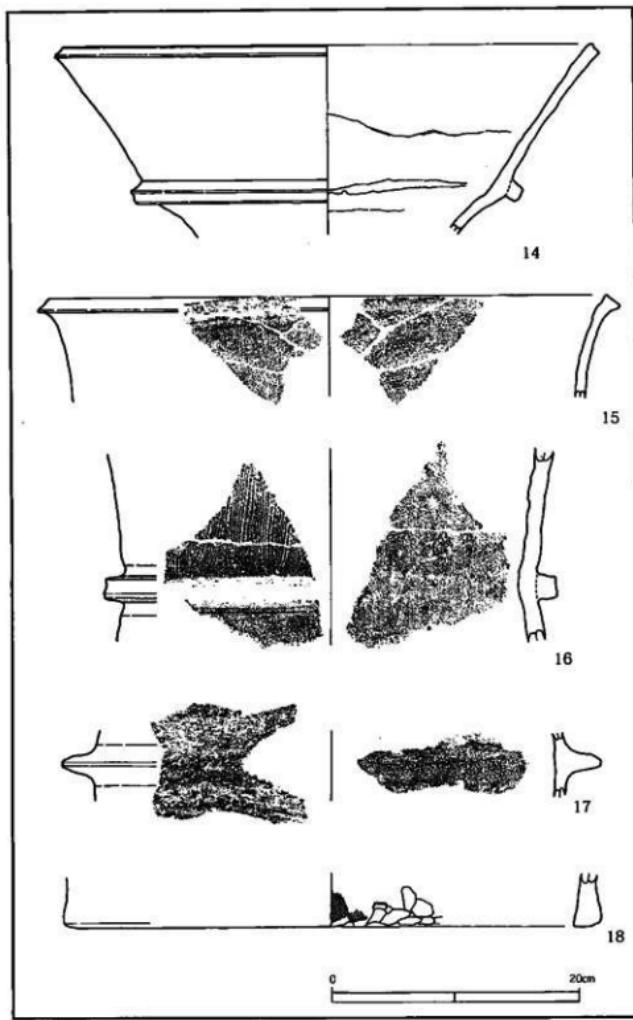
昭和58～60年にかけての調査で出土し、有孔円盤状木製品として紹介されたものと同形状を示す。直径18.10cm、厚さ2.86cmを測り、断面形は台形状をなしている。穿孔は2箇所が確認できる。

周溝

周溝は後円部形状と同様の一重である。南側から北に回り込むにつれて地形に沿うように深度を下げていく傾向がある。底部分は古墳の立地状況が北下がりの緩傾斜地にあるため南一西一北と低くなっている。幅は当初の予測よりも広いようである。



第8図 第6T r 出土遺物実測図 S=1/4



第9図 第7T r出土遺物実測図 S=1/4

出土遺物計測表

番号	Tr	器種	法量(cm)		調査			胎土	焼成	色調	残存状況	注記番号
			口径	底部径	表面	裏面	底部					
1	1	円筒・朝顔形埴輪						粗	軟質	暗乳茶褐色	小破片	1Tr-1
2	1	円筒・朝顔形埴輪			刷毛	ナデ		粗	やや軟質	乳茶褐色	小破片	1Tr-2
3	1	円筒・朝顔形埴輪				ナデ		やや粗	軟質	淡茶褐色	小破片	1Tr-3
4	2	円筒・朝顔形埴輪			刷毛	刷毛		粗	やや軟質	暗乳茶褐色	小破片	2Tr-1
5	2	円筒・朝顔形埴輪				ナデ		粗	やや軟質	乳茶褐色	小破片	2Tr-2
6	2	円筒・朝顔形埴輪			刷毛	ナデ		粗	やや軟質	乳茶褐色	小破片	2Tr-3
7	3	円筒・朝顔形埴輪				ナデ	ナデ	粗	軟質	乳茶褐色	小破片	3Tr-1
8	3	木製品									1/2残存	
9	6	円筒・朝顔形埴輪	38.80		刷毛	ナデ		やや粗	やや軟質	乳茶褐色	1/10残存	6Tr-1
10	6	円筒・朝顔形埴輪	44.45		ナデ	ナデ		粗	軟質	暗乳茶褐色	1/10残存	6Tr-5
11	6	円筒・朝顔形埴輪	28.85		刷毛	ナデ		粗	やや軟質	乳茶褐色	1/10残存	6Tr-3
12	6	壺形埴輪			刷毛	ナデ		粗	やや軟質	薄赤茶褐色	1/2残存	6Tr-2
13	6	円筒・朝顔形埴輪	34.20		ナデ	ナデ		粗	やや軟質	淡茶褐色	1/10残存	6Tr-4
14	7	壺形埴輪	42.50		刷毛	ナデ		粗	やや軟質	乳茶褐色	1/3残存	7Tr-2
15	7	円筒・朝顔形埴輪	44.70		刷毛	刷毛		粗	やや軟質	淡乳茶褐色	小破片	7Tr-1
16	7	円筒・朝顔形埴輪			刷毛	刷毛		粗	やや軟質	乳茶褐色	小破片	7Tr-3
17	7	円筒・朝顔形埴輪			刷毛	ナデ		粗	軟質	乳茶褐色	小破片	7Tr-4
18	7	円筒・朝顔形埴輪	43.00			刷毛		粗	軟質	乳茶褐色	小破片	7Tr-5

* 表中の注記番号は01鏡子塚が省略してある。

写真図版



写真 1

銚子塚古墳前方部より後円部を望む



写真 2
前方部より西方を望む



写真 3
古墳全景



写真 4
調査前の様子 1



写真 5
調査前の様子 2



写真 6
調査前の様子 3



写真 7
終了後の埋め戻し状況 1



写真 8
終了後の埋め戻し状況 2

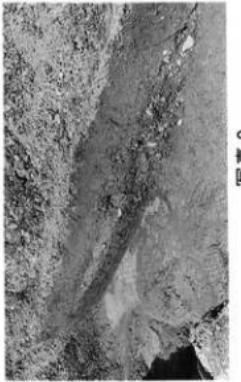


写真 9
第1 T r 土層断面



写真 10
第1 T r 調査風景

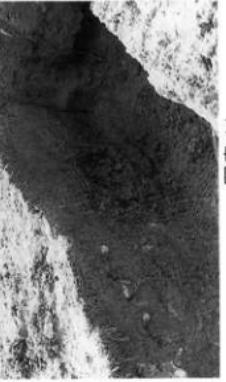


写真 11
第2 T r 土層断面



写真 12
第3Tr 土層断面



写真 13
第3Tr 排水作業



写真 14
第4Tr 土層断面



写真 15
第5Tr 土層断面



写真 16
第5Tr
掘削状況



写真 17
第3Tr 出土木製品

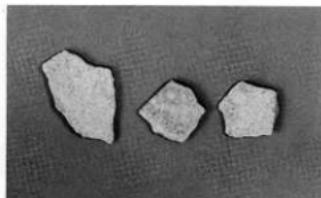


写真 18
第1Tr 出土埴輪片



写真 19
第2Tr
出土埴輪片

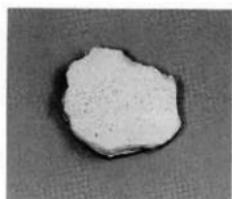


写真 20
第3Tr
出土埴輪片



写真 21
第 6・7 Tr 調査前の状況



写真 22
第 6・7 Tr 埋め戻し後の状況



写真 23
第 6 Tr 重機による掘削



写真 24
第 6・7 Tr



写真 25
第 6 Tr その 1



写真 26
第 6 Tr その 2



写真 27
第 7 Tr



写真 28
第 7 Tr 掘り下げる風景



写真 29
後円部南西残土処理前



写真 30
後円部南西残土処理後

報告書概要

ふりがな	くにしていしせき ちょうしづかこふんふまるやまづかこふん
書名	国指定史跡 銚子塚古墳附丸山塚古墳
副題	史跡整備事業に伴う発掘調査報告
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第195集
編集社名	吉岡弘樹・齊藤伸
発行者	山梨県教育委員会
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
住所・電話	〒400-0015 山梨県東八代郡中道町下曾根923 TEL 055-266-3016
印刷所	(株)ダイショウ印刷
印刷日・発行日	平成14年3月20日・平成14年3月28日

史跡概要

遺跡名	国指定史跡 銚子塚古墳附丸山塚古墳
所在地	山梨県東八代郡中道町下曾根字874
地形図	25,000分の1 甲府
位置	北緯35°35'20" 東経138°35'0"
市町村コード	19326
主要な時代	古墳時代
主要な遺構	周溝
主要な遺物	木製埴輪、円筒・朝顔形埴輪、壺形埴輪
調査機関	平成13年10月9日~24日・平成14年1月15日~28日

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第195集

国指定史跡 銚子塚古墳附丸山塚古墳

史跡整備事業に伴う発掘調査報告

印刷日 平成14年3月20日
 発行日 平成14年3月28日
 編集 山梨県埋蔵文化財センター
 印刷所 (株)ダイショウ印刷

